

令和6年度PDCAサイクル(認知症・せん妄ケアサポートチーム)

P

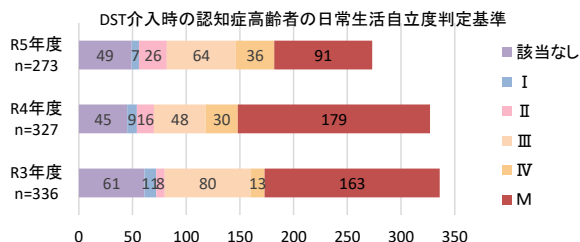
計画



認知症・せん妄ケアサポートチーム(以下DST)が介入した患者のうち、認知症高齢者の日常生活自立度判定基準でMランク(著しい精神症状等)に該当する方の人数は、毎年最も多い。しかし令和5年度はその数が減少しており、DST活動により病棟の対応力が徐々に向上してきていると考えられる。身体的拘束を行わず工夫して対応しているケースも多くなりようになった。次年度、DSTは身体的拘束最小化チームも兼ねることとなったことも併せて、より一層身体的拘束を少なくできるようケアの質向上を目指し、患者が安心・安楽に入院生活を送れるような方策を多職種協働のもと検討していきたい。

【今年度の目標】

- ①身体的拘束最小化チームを始動し、職員の倫理観の向上に努める。
- ②各病棟の認知症・せん妄ケア担当者会においてケアの質向上のための勉強会の実施を行う。
- ③認知症・せん妄についての研修会を引き続き実施し、現場対応力向上に努める。



D

実行



認知症のある患者へのケアの充実と、せん妄への対応力向上、身体的拘束の最小化を目指した活動を実施した。

1. 研修会の実施

- 1) 全職員に対して集合研修・オンデマンド研修を行った。
- 2) DSTメンバーにより、認知症やせん妄、身体的拘束についての勉強会を実施した。
- 3) 研修医・認知症ケア病棟担当者に対してDST回診の参加型研修体制をとり、実践的な教育を行った。

2. 病棟との連携

- 1) 認知症ケア担当者会にて、認知症やせん妄についての勉強会や身体的拘束の体験型研修会、現場の現状調査を行った。
- 2) 病棟カンファレンスへ積極的に参加し、現状の把握と改善に努めた。
- 3) 病棟看護師へ看護計画の立案強化の声かけを行い、認知症・せん妄患者の個々に応じた観察力向上に努めた。

3. DST体制の強化

- 1) DSTマニュアル、薬物治療マニュアルの見直しを行った。
- 2) 新たに「身体的拘束最小化チーム」を立ち上げて「身体的拘束最小化のための指針」を策定した。

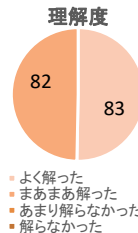
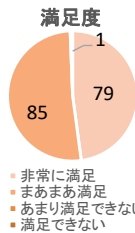
C

評価



認知症・せん妄ケア研修会(R6/11/7実施)

参加者数: 178人 同席者数: 165人

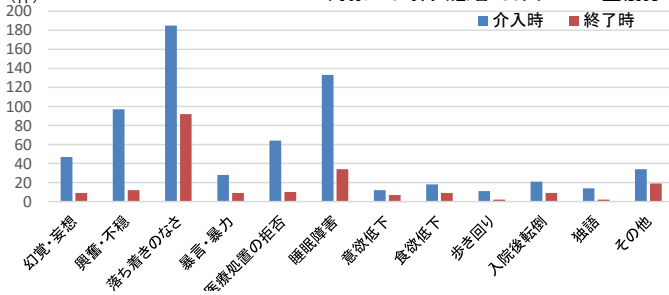


研修会参加者へアンケートを行ったところ、

DST介入前後の困った症状の比較

期間: R6年4月～R7年3月

対象: DST介入患者236人 * 重複あり



R6年度中にDST介入依頼があった患者の困った症状について、介入前後で比較したところ、多くの項目で症状が減少した。
DSTと病棟スタッフとの協働によって、ケアの手だてを見いだし、困りごとが改善した

A

改善



1. 認知症患者・せん妄患者に寄り添ったケアサポートに取り組む

- ・勉強会、参加型研修会の実施を継続し、知識の定着を図る。
- ・フィードバックを通して良い対応方法や環境整備への取り組み評価をつづけて、モチベーション向上を目指す。

2. 身体的拘束最小化チームの活動を始動する

- ・院内スタッフ全員で「身体的拘束最小化」に取り組む。
- ・身体的拘束最小化に向けたカンファレンスを行い、代替案を検討していく。
- ・院内スタッフへ身体的拘束の実施状況を周知し、意識付けからの行動変容に繋げる。
- ・身体的拘束に関する意識調査を行う。